

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	JES一宮ビル	階数	地上12階
建設地	愛知県一宮市本町二丁目2番1	構造	S造
用途地域	都市計画区域内(市街化区域)	平均居住人員	- 人
気候区分	6地域	年間使用時間	- 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年9月 予定	評価の実施日	2022年6月29日
敷地面積	1,463 m ²	作成者	杉岡敬幸
建築面積	916 m ²	確認日	2022年6月29日
延床面積	9,960 m ²	確認者	西河辰彦・田中宏樹



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

★☆☆☆☆

30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆☆☆ 100%超: ★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	138 (kg-CO ₂ /年・m ²)	100%
②建築物の取組み	46	82%
③上記+②以外の	46	82%
④上記+	46	82%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境	3.0
温熱環境	3.2
光・視環境	2.4
空気質環境	3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性	3.2
耐用性	3.0
対応性	3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.8

建物外皮の	2.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.6
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

水資源	3.4
非再生材料の使用削減	2.6
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化への配慮	3.7
地域環境への配慮	2.3
周辺環境への配慮	2.7

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>44.9 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>8.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	44.9 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	8.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	44.9 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	8.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
JES一宮ビル

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質												
Q1 室内環境												
1 音環境												
1.1 室内騒音レベル												
1.2 遮音												
1 開口部遮音性能												
2 界壁遮音性能												
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												
1.3 吸音												
2 温熱環境												
2.1 室温制御												
1 室温												
2 外皮性能												
3 ゾーン別制御性												
2.2 湿度制御												
2.3 空調方式												
3 光・視環境												
3.1 屋光利用												
1 屋光率												
2 方位別開口												
3 屋光利用設備												
3.2 グレア対策												
1 屋光制御												
3.3 照度												
3.4 照明制御												
4 空気質環境												
4.1 発生源対策												
1 化学汚染物質												
4.2 換気												
1 換気量												
2 自然換気性能												
3 取り入れ外気への配慮												
4.3 運用管理												
1 CO ₂ の監視												
2 喫煙の制御												
Q2 サービス性能												
1 機能性												
1.1 機能性・使いやすさ												
1 広さ・収納性												
2 高度情報通信設備対応												
3 バリアフリー計画												
1.2 心理性・快適性												
1 広さ感・景観 (天井高)												
2 リフレッシュスペース												
3 内装計画												
1.3 維持管理												
1 維持管理に配慮した設計												
2 維持管理用機能の確保												
2 耐用性・信頼性												
2.1 耐震・免震・制震・制振												
1 耐震性(建物のこわれにくさ)												
2 免震・制震・制振性能												
2.2 部品・部材の耐用年数												
1 躯体材料の耐用年数												
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												
6 主要設備機器の更新必要間隔												
2.4 信頼性												
1 空調・換気設備												
2 給排水・衛生設備												
3 電気設備												
4 機械・配管支持方法												
5 通信・情報設備												

3 対応性・更新性					0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり					0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				基準階高4.4m	-	5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ					3.0	3.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性			②		-	3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30		-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	3.0	0.30		-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-			-	-	2.8
LR1 エネルギー						-	0.40		-	-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=1	3.0	2.0	0.30		-	-	2.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.75	3.0	3.5	0.30		-	-	3.5
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価					-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング					-	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30		-	-	2.8
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水				洋風便器・小便器は節水型便器	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.6	0.63		-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減					-	3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	3.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22		-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68		-	-	
1 消火剤					-	-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	0.50		-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30		-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率82%	-	3.7	0.33		-	-	3.7
2 地域環境への配慮					0.3	2.3	0.33		-	-	2.3
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.5	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制			独自		-	3.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	2.7	0.33		-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00		-	-	
2 振動			独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭					-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制					-	3.0	-		-	-	
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	1.6	0.20		-	-	
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策					-	1.0	0.70		-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

JES一宮ビル

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:44.9%/建物緑化:8%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 JES一宮ビル

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>集客力のある中規模テナントビルとして、快適で過ごしやすい環境計画に配慮する。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>快適な執務環境を実現するための各種設備計画としている。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>ゆとりある階高・天高設定とし、機器等は維持管理性にも配慮した計画としている。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>地区計画による空地創出や、緑地の提供などに配慮している。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>外皮性能等標準的な仕様で配慮している。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>衛生機器の節水など水資源へ主に配慮している。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>温熱環境や周辺環境へ一般的な仕様にて配慮している。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>